



## 2019年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2018年11月14日

上場会社名 株式会社うるる 上場取引所 東  
 コード番号 3979 URL https://www.uluru.biz/  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 星 知也  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 近藤 浩計 TEL 03(6221)3069  
 四半期報告書提出予定日 2018年11月14日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有  
 四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト向け）

(百万円未満切捨て)

### 1. 2019年3月期第2四半期の連結業績（2018年4月1日～2018年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年3月期第2四半期	1,016	20.8	203	29.3	202	29.4	142	18.3
2018年3月期第2四半期	840	—	157	—	156	—	120	—

(注) 包括利益 2019年3月期第2四半期 141百万円 (17.8%) 2018年3月期第2四半期 119百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年3月期第2四半期	43.58	42.76
2018年3月期第2四半期	37.05	36.13

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2019年3月期第2四半期	3,039	2,086	68.7
2018年3月期	2,813	1,942	69.0

(参考) 自己資本 2019年3月期第2四半期 2,086百万円 2018年3月期 1,942百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2019年3月期	—	0.00			
2019年3月期（予想）			—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2019年3月期の連結業績予想（2018年4月1日～2019年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,137	12.1	376	△3.6	354	△9.1	279	△2.9	85.69

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2019年3月期2Q	3,263,000株	2018年3月期	3,257,900株
② 期末自己株式数	2019年3月期2Q	－株	2018年3月期	－株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2019年3月期2Q	3,258,872株	2018年3月期2Q	3,241,100株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。また、当社は2018年11月27日に機関投資家・アナリスト向けの四半期決算説明会を開催する予定です。当日使用する決算説明資料は、当社ホームページに掲載します。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報)	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間(2018年4月1日～2018年9月30日)における我が国経済は、政府による経済政策や金融政策を背景に、雇用環境や企業業績の改善が続き、景気は緩やかな回復基調で推移しました。一方、海外では米国の通商政策による輸出企業への影響、朝鮮半島情勢を巡る警戒感の高まりなど先行き不透明な状況が続いております。

当社グループを取り巻く経営環境につきましては、当社グループのビジネスの中核である、クラウドソーシングのクラウドワーカーを活用して生み出されたサービスを展開するCGS事業(Crowd Generated Service)においては、官公庁等の入札情報を提供する入札情報速報サービス「NJSS(エヌジェス)」が業績を牽引しておりますが、国内情報サービス業の売上高規模は2017年においては11兆3,814億円(前年比3.5%増加)と6年連続で成長を続けております(経済産業省「特定サービス産業動態統計調査」)。また、CGSのリソース供給源であるクラウドソーシングの市場規模は、矢野経済研究所「BPO(ビジネスプロセスアウトソーシング)市場の実態と展望2016-2017」によると、2016年度の流通金額規模(仕事依頼金額ベース)は前年比46.2%増の950億円となっております、2020年度には2,950億円に達すると予測されています。

このような状況のなか、当社グループにおきましては、CGS事業で展開する入札情報速報サービス「NJSS」の拡大、その他のCGSの拡大、新規CGSの創出に注力して参りました。また、CGSのリソース供給源である、クラウドソーシングサービスである「シュフティ」のUI・UXの改善、そして企業のアウトソーシング・ニーズに対応するBPO事業については、将来の売上・利益につながる受注獲得のための営業活動に注力いたしました。この結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は1,016,184千円(前年同期比20.8%増)と堅調に推移し、営業利益は203,222千円(前年同期比29.3%増)、経常利益は202,812千円(前年同期比29.4%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は142,006千円(前年同期比18.3%増)と増収増益を達成いたしました。

各セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

なお、第1四半期連結会計期間より、CGS事業におけるNJSS以外のサービスの重要性が増してきており、報告セグメントを従来の「CGS事業」、「BPO事業」及び「クラウドソーシング事業」の3区分から、「CGS事業 NJSS」、「CGS事業 その他」、「BPO事業」及び「クラウドソーシング事業」の4区分に変更しております。なお、以下の前年同四半期比較においては、前年同四半期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

#### ① CGS事業 NJSS

CGS事業のうち、当社グループの業績を牽引する「NJSS」については、インターネットでのリスティングやSEOによるマーケティングに加え、展示会出展等のリアルな場でのマーケティング実施の成果もあり、有料契約件数は順調に推移しました。また、高単価なプレミアムプラン・プラチナプランの受注が引き続き順調に獲得できたこと及び営業のマネジメント体制強化により、顧客単価の向上もいたしました。さらに、入札資格の管理支援サービスの提供及び入札に関するデータ販売についても順調に推移しました。

この結果、当第2四半期連結累計期間におけるCGS事業 NJSSの売上高は596,354千円(前年同期比14.5%増)となり、セグメント利益は382,645千円(前年同期比12.4%増)となりました。

#### ② CGS事業 その他

CGS事業 その他の業績は、CGS事業の「NJSS」以外のサービスの業績から算出しております。その内、多くを占める、保育園・幼稚園向けの写真販売システムを提供する「えんフォト」では、営業活動の拡大によりサービスを利用して頂いている保育園・幼稚園が増加しました。また、前連結会計年度にサービス提供を開始した新規CGSである、クラウドワーカーを活用したコール代行サービス「フレックスコール」の受注が順調に推移しました。また、それ以外の新規CGSについては、事業検証のための投資を引き続き行いました。

この結果、当第2四半期連結累計期間におけるCGS事業 その他の売上高は80,745千円(前年同期比59.9%増)となり、セグメント損失は14,590千円(前年同四半期は19,533千円の損失)となりました。

#### ③ BPO事業

BPO事業については、顧客からの再受注拡大を狙った新たな営業活動手法や受発注における見積金額の算出方法を見直したことが功を奏し、当第2四半期連結累計期間におけるBPO事業の売上高は321,055千円(前年同期比27.5%増)となり、セグメント利益は25,580千円(前年同期比56.2%増)となりました。

#### ④ クラウドソーシング事業

クラウドソーシング事業については、登録クラウドワーカーが約38万人まで増加しました。また、CGS事業やBPO事業のプラットフォームとしての位置付けから、ユーザー利便性を高めるためのサービス改修を継続しております。この結果、当第2四半期連結累計期間におけるクラウドソーシング事業の売上高は18,028千

円（前年同期比2.3%増）となり、セグメント損失は59,049千円（前年同四半期は48,050千円の損失）となりました。

## （2）財政状態に関する説明

### ①資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末の資産については、前連結会計年度末と比べ225,650千円増加し、3,039,492千円となりました。これは主に現金及び預金の増加45,571千円、売掛金の減少7,668千円、流動資産にかかるその他の増加168,986千円によるものです。

負債については、前連結会計年度末と比べ81,389千円増加し、952,504千円となりました。これは主に前受金の増加89,385千円、未払法人税等の増加18,359千円によるものです。

純資産については、前連結会計年度末と比べ144,261千円増加し、2,086,987千円となりました。これは主に利益剰余金の増加142,006千円によるものです。

なお、「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、財政状態の状況については、当該会計基準等を遡って適用した後の数値で前連結会計年度との比較を行っております。

### ②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、2,554,958千円となりました。当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、以下のとおりであります。

#### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動によるキャッシュ・フローは86,122千円の収入（前年同四半期連結累計期間は147,862千円の収入）となりました。この主な要因は、税金等調整前当期純利益202,718千円の計上、前受金の増加89,385千円、法人税等の支払額又は還付額20,199千円であります。

#### （投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動によるキャッシュ・フローは38,103千円の支出（前年同四半期連結累計期間は12,436千円の支出）となりました。この主な要因は、有形固定資産の取得による支出9,750千円、無形固定資産の取得による支出13,933千円、敷金の差入による支出14,490千円であります。

#### （財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動によるキャッシュ・フローは1,768千円の支出（前年同四半期連結累計期間は7,779千円の支出）となりました。この主な要因は、長期借入金の返済による支出4,958千円、株式の発行による収入3,190千円であります。

## （3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の連結業績予想については、2018年5月14日に決算短信で公表しました内容に変更はございません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2018年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,534,407	2,579,978
売掛金	110,171	102,502
仕掛品	3,940	4,054
その他	49,123	218,109
貸倒引当金	△844	△859
流動資産合計	2,696,798	2,903,786
固定資産		
有形固定資産	42,308	44,086
無形固定資産	6,142	19,153
投資その他の資産	68,591	72,465
固定資産合計	117,043	135,706
資産合計	2,813,841	3,039,492
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	63,869	47,681
1年内返済予定の長期借入金	8,843	5,570
未払法人税等	41,751	60,111
前受金	474,522	563,907
その他	280,443	275,234
流動負債合計	869,430	952,504
固定負債		
長期借入金	1,685	—
固定負債合計	1,685	—
負債合計	871,115	952,504
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	945,102	946,697
資本剰余金	927,402	928,997
利益剰余金	71,422	213,428
株主資本合計	1,943,926	2,089,122
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△1,358	△2,293
その他の包括利益累計額合計	△1,358	△2,293
非支配株主持分	157	158
純資産合計	1,942,725	2,086,987
負債純資産合計	2,813,841	3,039,492

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第2四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)
売上高	840,871	1,016,184
売上原価	238,808	298,726
売上総利益	602,063	717,457
販売費及び一般管理費	444,925	514,234
営業利益	157,138	203,222
営業外収益		
受取利息	20	26
ポイント収入額	305	141
貸倒引当金戻入額	—	131
その他	24	—
営業外収益合計	350	299
営業外費用		
支払利息	125	70
為替差損	623	599
その他	—	39
営業外費用合計	749	709
経常利益	156,739	202,812
特別損失		
固定資産除却損	—	94
特別損失合計	—	94
税金等調整前四半期純利益	156,739	202,718
法人税、住民税及び事業税	19,217	51,311
法人税等調整額	17,427	9,394
法人税等合計	36,644	60,705
四半期純利益	120,094	142,012
非支配株主に帰属する四半期純利益	5	5
親会社株主に帰属する四半期純利益	120,089	142,006

(四半期連結包括利益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)
四半期純利益	120,094	142,012
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△325	△926
その他の包括利益合計	△325	△926
四半期包括利益	119,769	141,086
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	119,767	141,089
非支配株主に係る四半期包括利益	2	△3



## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	156,739	202,718
減価償却費	7,752	8,531
固定資産除売却損益(△は益)	—	94
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△557	15
受取利息	△20	△26
支払利息	125	70
売上債権の増減額(△は増加)	20,662	7,517
たな卸資産の増減額(△は増加)	△7,800	△113
仕入債務の増減額(△は減少)	△2,997	△16,188
前受金の増減額(△は減少)	103,882	89,385
その他	△82,883	△185,638
小計	194,903	106,365
利息の受取額	20	26
利息の支払額	△125	△70
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△46,935	△20,199
営業活動によるキャッシュ・フロー	147,862	86,122
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△12,436	△9,750
無形固定資産の取得による支出	—	△13,933
敷金の差入による支出	—	△14,490
その他	—	70
投資活動によるキャッシュ・フロー	△12,436	△38,103
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入金の返済による支出	△7,779	△4,958
新株予約権の行使による株式の発行による収入	—	3,190
財務活動によるキャッシュ・フロー	△7,779	△1,768
現金及び現金同等物に係る換算差額	△153	△680
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	127,493	45,569
現金及び現金同等物の期首残高	2,201,786	2,509,388
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,329,280	2,554,958

## (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

## 【セグメント情報】

## I 前第2四半期連結累計期間(自2017年4月1日至2017年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1.	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2.
	CGS事業 NJSS	CGS事業 その他	BPO事業	クラウドソー シング事業	計		
売上高							
外部顧客への売上 高	520,896	50,508	251,837	17,628	840,871	—	840,871
セグメント間の内 部売上高 又は振替高	8,621	1,503	5,338	965	16,429	△16,429	—
計	529,518	52,011	257,176	18,594	857,301	△16,429	840,871
セグメント利益又は 損失(△)	340,474	△19,533	16,373	△48,050	289,263	△132,125	157,138

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△132,125千円は、セグメント間取引消去126千円、各報告セグメントに配分していない全社費用(主に販売費及び一般管理費)△132,252千円であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## II 当第2四半期連結累計期間(自2018年4月1日至2018年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1.	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2.
	CGS事業 NJSS	CGS事業 その他	BPO事業	クラウドソー シング事業	計		
売上高							
外部顧客への売上 高	596,354	80,745	321,055	18,028	1,016,184	—	1,016,184
セグメント間の内 部売上高 又は振替高	8,801	10,122	5,529	1,248	25,700	△25,700	—
計	605,155	90,868	326,584	19,276	1,041,885	△25,700	1,016,184
セグメント利益又は 損失(△)	382,645	△14,590	25,580	△59,049	334,585	△131,362	203,222

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△131,362千円は、セグメント間取引消去125千円、各報告セグメントに配分していない全社費用(主に販売費及び一般管理費)△131,488千円であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、CGS事業におけるNJSS以外のサービスの重要性が増してきたことから、報告セグメントを従来の「CGS事業」、「BPO事業」、「クラウドソーシング事業」の3区分から、「CGS事業 NJSS」、「CGS事業 その他」、「BPO事業」、「クラウドソーシング事業」の4区分に変更しております。なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分に基づいて作成しています。